

発行日 2010.9.18

編集発行人 重富克彦

時は縮まっている。

1Cor7:21

Kairos

事務所所在地 064-0912 札幌市中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

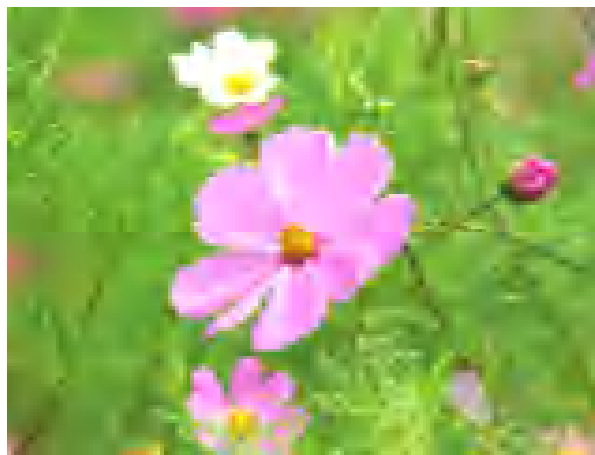
生は主のもの 死もまた主のもの



(身を横たえて眠り、わたしはまた、目覚めます。主が支えていてくださいます。) 詩編3:6

キリスト教の葬儀は、その地方における秩序やしきたり、葬るべき人の信仰と送る人たちの信仰の中で、信仰的な側面と社会的な習慣とが組み合わされているものの、あくまでも人の生死を司られる神さまを中心に行われます。ですから教会は、キリストの復活の神秘を祝い、信仰者がその恵みに与る事を記念します。

礼拝形式で行われる諸式においては、故人に対する神さまの恵み、また故人を通して与えられた恵みを感謝と共に思い起こします。そして、キリストの十字架の贖いと復活を覚え、召された者を神さまの御手に委ね、残された人々への慰めを祈るのです。また、これらの一連の儀式を通して、送る側にいる私たちも旅立った者と同じように限りある命を生きている、生かされている事をあらためて意識させられます。



7月に訪れたフィンランドでは、日本では見かけない風景に出会いました。それは、教会の敷地に隣接する墓地群と敷地内にある墓碑群です。どうして二箇所に分かれているのか、と怪訝に思っていたら、隣接するのが一般の人々の墓地、敷地内にある墓碑は戦死者たちの墓であると教わりました。

フィンランドでは、宗教改革以降、早い時期にルーテル教会が国教会(国の宗教)として定められました。ですから、国のために命を捧げた兵士たちが特別に教会の敷地内に埋葬されているのです。

整然と並んだ墓碑の前には、どういうわけか赤いお花が生けてあります。日本ではありえないと思いつつ、これらの墓碑と生けられた花に、今を生きるキリスト者の思いが託されているような気がしました。

それは、戦死者たちを教会の敷地内に埋葬し、記念することによって、憎み、争い、殺しあう戦争等の過ちへの懺悔を表し、血のように赤い花によってキリストの贖いの死によって与えられた罪の赦しという恵みへの感謝を表しているように感じられたからです。

札幌教会では今年も墓前礼拝が行われます。在りし日の兄弟姉妹を偲びつつ、これまでに与えられた恵みの数々を思い起こし、なお地上にいる私たちに神さまが命を与え、恵みと祝福によって導いてくださっていることを覚えます。生かされているが故の悩みや痛み、苦しみもあるかも知れませんが、主はどのような時にも私たちを支えてくださっています。今日という日を感謝し、天にある人々と共に感謝の讃美を共に主にささげましょう。(K. Okada)

教会の活動

集まろう！ 讃美しよう！ 北海道特別教区 信徒大会

10月11日10時開会 札幌礼拝堂

北海道は広い。そのために、同じ日本福音ルーテル教会に属しながら、教会員同士が顔を会わせる機会が少ない。今回の信徒大会は、その数少ない貴重な機会の一つでもある。出来るだけ多くの同信の共と顔を合わせよう。

大会は二部に分けて行なわれる。午前中は大会礼拝。日本福音ルーテル教会事務局長および書記の立野泰博牧師を説教者として招き、函館教会に今年就任した坂本千歳牧師の総司式によって、聖餐礼拝が持たれる。聖餐式には、道産のぶどう酒とパンが用いられる。

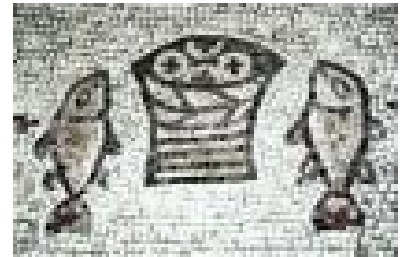
昼食は、幼稚園を開放して参加者一緒に食べる。豊かな交わりの時とするために、1時間40分の時間が用意されている。情報の交換、市川一宏ルーテル学院大学学長、竹内茂子同後援会長のアピールも行なわれる予定。

午後は2時から讃美礼拝。北海道特別教区の同信の友が、沢山の讃美歌を歌い、声を合わせ、思いっきり

讃美する。讃美の中で、教区の五人の牧師が、「降誕」「ガリラヤのイエス」「仕え人イエス」「十字架のイエス」「勝利者イエス」と、それぞれのテーマで、聖書に基づいてイエスの生涯をたどり、説教をリレーする。中程で「洗足」の儀式が行なわれ、主イエスが「洗足」とその生き方を想起する。儀式は、牧師と信徒の代

表によって行なわれ、会衆は、それを見ているだけだが、沈黙の中で、必ず、自分自身の足を主が洗って下さっているのを感じるに違いない。

オルガニスト、聖書朗読も、各教会、礼拝堂から選ばれた人によって受け持たれる。役がある人もない人も全員参加の讃美集会である。10月11日(月)、9時30分、札幌礼拝堂に集おう。



9.19 墓前礼拝

毎年9月の第三日曜日は、平岸霊園において墓前礼拝が持たれる。この日取りは、お彼岸に墓参する日本の風習を取り入れ、その日に最も近い日として選ばれたものだ。

キリスト教の信仰では、墓は、ひとつの記念碑以上のものではなく、死者の霊が墓にいるという信仰はない。

ではなぜ、人は墓参によって安らぎを得るのだろうか。その記念碑が、逝きし者を想起するよすがとなってくれるからである。「忘却は亡び、想起は救い」というユダヤの諺がある。わたしたちが、逝きし者を想起するとき、逝きし者もまた、想起の中で、わたしたちの傍らにいてくれるのだ。その瞬間、天地は呼応しあっている。

めばえ幼稚園

さあ運動会だ

9月23日(木)は運動会。午前9時半に開幕し、お昼まで、幌西小学校のグラウンドで行なわれる。

「ディズニー体操」「かけっこ」「FIFAワールドカップ2010」「パンダ、うさぎ、こあら」「GOGOジャンプ」「20匹の猫」「海洋少年団」「お化け探しに行こう」「ハローマイフレンズ」「お兄さ

ん、お姉さん頑張って」「ももいるのきりん」「ふたりでなかよく」「追いつけ追い越せ」と、アイデアをこらした出し物が盛りだくさんだ。

めばえ幼稚園の運動会は、園児、先生、保護者の息のあったコラボレーションによって、いつも素晴らしいイベントになってきた。今年も、きっと、心に残る運動会になるに違いない。フレー、フレー！



本番が待ち遠しい。
その日に向けて毎日練習

地獄のイメージ

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

詩編23:1

現代人はとても楽天的だ。死んだらみんな天国に行けると思っている。芸能人の葬式の弔辞ではしばしば「天国」という言葉が使われる。葬儀は仏教なのに「浄土」とか、「草葉の蔭」というような言葉は使われない。「天国」のほうが、馴染みやすいのだろうか。

「天国」のイメージは、安易に語られるものの、「地獄」のイメージは、現代人の意識からは殆ど消えている。けれど本当に消えているわけではなく、無意識の奥に封印されてしまっているのである。

オウム真理教の洗脳の方法は、カルト特有の瞑想法によって、無意識の奥の封印を解いて「地獄」の幻覚を立ち上げ、その恐怖によって教祖への絶対服従に誘導するものだった。後には、手っ取り早く、麻薬の幻覚も利用していたらしい。

「地獄」の脅しによって、帰依を迫るのはカルトに特徴的で、オウム真理教に限ったことではない。けれど、では「地獄」の教理が、カルト固有のものかと言えば決してそうではない。古来からの真摯な宗教も、例外なく「地獄」の存在を信じ、その教えを用いて教導してきた。

平安中期の天台宗僧侶源信は、往生要集を著し、地獄を上位から下位まで八層に分類し、微に入り細にわたりその有様を描写している。互いに鉄の爪でひっかき合い、ついには血も肉も無くなって骨だけとなり、しかもまた、すぐに元に戻って、傷つけ合いを続ける。これが一番上位層の等活地獄。最下位層は阿鼻地獄で、ここはただ炎の燃えさかる場所。人はそこで焼き尽くされながら、しかも死ぬことが出来ない。上位層から下位層まで、地獄は人間の経験する肉体的精

神的苦痛を無限にまで拡大した世界である。似たような展開は中世カトリックにも見られる。洋の東西とも、なぜか中世は地獄に思いを巡らせた時代だったようだ。

コーランにも、聖書にも、このように精緻な地獄の描写はない。コーランは聖書の影響を受けているからか、地獄のイメージは酷似している。地獄では「業火の炎」が燃えさかり、人は「煮えたぎる熱湯の中を彷徨う」新約聖書においても、地獄は「火の地獄」(マタイ5:22)である。普遍的に、地獄と火とは、切っても切り離せない関係のようだ。霊的な無限苦をたとえるのに燃えさかる火の苦しきは最もふさわしい隠喩なのだろうか。



新約聖書の場合、旧約から受け継いだ陰府(シェオール、ハデス)のイメージと地獄(ゲヘナ)のイメージとは、微妙に区別される傾向がある。最終的な刑罰が執行されるのは地獄で、その手前が陰府である。けれどイエスご自身は、このような区別をされていない。「無慈悲な金持ちと貧乏人ラザロ」の譬えでは、無慈悲な金持ちは陰府(ハデス)で「燃えさかる炎」に苦しんでいる。

ともあれ、真摯な古来からの宗教が、必ず地獄の教理を保持していることは、無視できないことである。オウム真理教の出現は、安易に天国を語り、地獄のイメージを無意識の奥に封

印して、逆に秘かに進行している文明人の精神病理を、露出させたのだ。現在も、封印の奥から立ち上ってくる不安は、占いや、心霊ブームなどの現象として人々の心に蔓延、怪しげな霊媒師がもてはやされている。

天国は存在し、地獄も存在する。そのことを認識することが必要だ。ぜひとも天国に迎えられたいが、地獄に墮ちる可能性も否定できない。心の悪まで審判されれば、地獄行きの可能性は誰にでもある。可能性というより必然性と言うべきか。「この程度なら許していただけるのではないか、いや、そう思っている自分のずるがしこさが裁かれるのではないか」と煩悶は続く。いずれに審判されるか、それを

決めるのは神である。地獄に墮ちることは恐ろしい。地獄で人は死ぬことも出来ない。死ぬことも出来ない死、黙示録はこれを第二の死と言う。

人間は、地獄の恐れを封印することで、神への畏れを忘れた。けれど「魂も体も地獄で滅ぼすことが出来る

方」(マタイ10:28)への恐れこそが、真の畏れを呼び起こし、人間に尊厳を与えるのだ。

神は人が地獄に滅ぶことをけって望み給わない。キリストが遣わされたのは、そのためだ。わが身の地獄行きの可能性を知る者ほど、キリストが身代わりの罰を受けて陰府に下り、そこから蘇って下さったことの有り難さも分かる。地獄を馬鹿にしている者には、この有り難さは分からない。この有り難さが分からないと、自分では消し去ったつもりの無意識の魔界の恐怖に、簡単に足を掬われる。第二第三のオウム真理教はどこにでも存在する。(重富)

<地獄の思想>

隣国ロシアの始まりは9世紀の末に成立した「キエフ公国」。その建国後ほぼ一世紀を経た988年ころ、時の統治者ヴラジーミル公がビザンツ帝国の皇帝の妹を後に迎えるにあたって、東方正教会のキリスト教を国教として受容したことによって、ロシアはキリスト教文化圏ヨーロッパの一員となった。ヴラジーミル公は、ギリシャ正教の洗礼を受ける前に、イスラム教、ユダヤ教、ローマ・カトリック、ギリシャ正教の四つの宗教を比較検討した。ビザンツ帝国との国際関係という政治的利害を別とすれば、ヴラジーミル公が正教会のキリスト教を受け入れるにいたった宗教的理由は四つあった。コンスタンティノーブルの壮麗な聖ソフィア大聖堂

での荘厳な典礼を見学した使節団の「かしこには神が人々と共にいます」という帰朝報告に心を動かされたこと、ロシア最初の公的なキリスト教信者となった聡明な祖母オリガ公妃が信じた宗教だから正しい信仰に相違ないと思ったこと、重い眼病が癒された奇蹟、ギリシャから来た宣教師が示した「最後の審判」の恐るべき地獄絵に恐怖を覚えたこと。のギリシャ人宣教師が「罪人には業火の苦しみ、眠ることなき蛆虫、終りなき苦悩が与えられるであろう」と言って示した「最後の審判」の絵巻が具体的にどのようなものであったかは分からないが、地獄絵が、古来いずれの宗教においても、蒙昧な民衆に改宗を迫る

有効な威嚇手段であったことは確かである。しかし、キリスト教における地獄絵は中世ヨーロッパで発達した視覚表現であって、聖書では地獄の概念は内容的に希薄であり、凄まじいものではない。

「最後の審判」についての表象は新約聖書では重要な位置を占めているが、地獄の責め苦を感覚的に描いた細部は欠如している。地獄に落ちた者の状況は、外側からの視覚的な光景としては描かれてはおらず、内側からの精神的な痛みとして描かれているにすぎない。特に旧約聖書においては「陰府（よみ）」と翻訳されている

ヨーロッパの民衆文化とキリスト教の中の民間信

栗原 成郎



「シェオールšēol」は、暗くて音のない地下世界を指し、すべての人が行く死者の国であって、神の愛はそこにも及ぶのであり（詩編139：8）、悪人の刑罰の場としての地獄の明確な観念はない。陰府において善人と悪人が区別されるのは、旧約偽書の『エノク書』においてであり、特に墮天使のため

に用意された場所が地獄とされた。そのような刑罰の場としての地獄の概念は、「呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ」（マタイ25：41）のように、新約にも反映されている。旧約では陰府で苦しむ者は、死体に譬えられる。「外に出る人々は、私に背いた者らの死体を見る。蛆は絶えず、彼らを焼く火は消えることがない」（イザヤ66：24）。キリストは譬え話において「地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない」（マルコ9：48）とこの言葉を反復す

る。ヨーロッパの地獄絵で保存されている最古のものは、8世紀後半のもの。12世紀からは地獄の責め苦の描写は、緻密になり、加虐性を増す。地獄はあたかも神の審判の拷問部屋の如き様相を呈する。ここでは勤勉な刑吏の役を演じる悪鬼たちを統率するサタンが君臨する。罪の種類に対応する体罰がある。例えば、中傷者は、その舌の故に、舌に鉤を引っ掛けて吊るされ、偽証者は、その口の中に嘘を隠しているので、口の中を火で焼かれ、墮胎した女は胸に絡みついた蛇たちに乳房を含ませる。地獄の思想を発達させたのは、中世のカトリックであり、地獄の上に更に煉獄を設けた。ダンテの『神曲』はその芸術的表現の代表である。しかし、ヴラジーミル公の信じた東方正教は煉獄の存在を否定し、中世西欧文化の造り出した地獄のイメージを受け入れない。

日本福音ルーテル札幌教会 牧師 重富克彦 岡田 薫
札幌教会 URL <http://www.jelc.or.jp/sapporo>
札幌礼拝堂 064-0912 中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516
札幌北礼拝堂 001-0031 北区北31条西4丁目1-5 011-726-3243
新札幌礼拝堂 004-0053 厚別区厚別中央3条6-1-5 011-891-5246

